

論文の内容の要旨

論文題名(両端揃え)

ビデオ映像を活用した来院時心肺停止患者に対する看護師の行動解析
—初療教育の在り方の検討—

掲載雑誌名(巻・号・頁・掲載年)

昭和学士会雑誌 第81巻・第3号・2021年掲載予定

保健医療学研究科保健医療学専攻 博士後期課程内部障害リハビリテーション領域
藤後 秀輔

内容要旨(両端揃え) 600字以内

目的：救命救急センターの看護師の業務内容をビデオ映像で分析し、初療経験3年以上のベテランと初療経験3年未満のビギナーの行動の比較により、初療教育のあり方を明らかにする。

対象・方法：看護師8名（ベテラン4名、ビギナー4名）の患者入室から30分間の監視カメラを用いたビデオ映像を分析対象とし、15秒間隔の120ポイントの看護師の滞在場所、業務内容を集計した。30分間全体と10分毎の推移を分析した。次にこれらの結果をベテランとビギナーで比較した。

結果：30分間全体で、業務内容は「診療補助・患者対応業務」「看護記録業務」「家族に対する心のケアおよび準備」の順に多かった。時間区分で比較すると10～20分間では、ベテランはビギナーより「家族に対する心のケアおよび準備」の行動が有意に多く、「看護記録業務」が有意に少なかった。

考察：来院時心肺停止症例における看護師の行動は「診療補助・患者対応業務」が中心だったが、時間経過とともに目的を踏まえた行動をしていた。ベテランはビギナーよりも早期から「家族に対する心のケアおよび準備」といった次を予測した行動をとっていた。

結語：初療教育では、これまで行われてきた「看護記録業務」を効率的に行うための教育に加え、次を予測した行動をとるための「ビデオ映像」等を用いた看護師の行動の客観的な評価とそのリフレクションを行い、臨床判断のプロセスを言語化し看護師相互で共有することが必要である。